

# 現代客語借用日語詞彙的音聲變異現象

羅濟立

東吳大學日本語文學系副教授

## 摘要

本文以客家委員會『客語詞彙資料庫系統平台』中出現的日語借詞為資料，考察分析客家人借用日語時發生的音聲變異現象。

第1節敘述研究的目的，第2節簡述調查的資料範圍。第3節比較了客語和日語的音節構造，以及簡述其借用過程產生的影響。第4、5、6、7節以音節、聲母、韻母、聲調等四項目探討現代客語借用日語詞彙時所能觀察到的音聲變異現象。最後第8節展望今後研究的方向。

關鍵詞：現代客語、日語借詞、『客語詞彙資料庫系統平台』、音聲變異現象

受理日期：2013.08.27

通過日期：2013.10.26

# **Lexical Borrowing from Japanese**

## **-A Case Study of Phonetic Changes**

LUO JiLi

Associate professor, Department of Japanese Language and Culture,  
Soochow University

### **Abstract**

This study examines how Hakka borrowed words from Japanese to the modern Hakka dialect. Section 1~2 begins with a brief overview of the purpose and the data of investigation. Section 3 compares the syllable structure of the two languages, and explains briefly the influence of the borrowing. Section 4~7 summarizes the phonetic changes of loanwords through the syllable structure, initial, final and tone. Section 8 outlines directions for future research.

Key words: modern Hakka dialect、 Japanese loadwords、 「The data base system platform of Hakka's vocabulary」、 phonetic change

# 現代客家語の日本語借用 —その音声・音韻的統合—

羅濟立

東呉大学日本語学科副教授

## 要旨

本稿では、客家委員會『客語詞彙資料庫系統平台』にあらわれた日本語借用語を対象に、客家人が日本語から母語に単語を借用した時に、どのような音声的変容が起こったかを分析していく。

まず第1節で研究の目的を述べ、第2節で、調査の資料を概説する。次に第3節で、客家語と日本語の音節構造と借用を簡単に説明した。第4、5、6、7節で、現代客家語で日本語から単語を借用する際に観察される音韻的諸特徴を、音節、声母、韻母、声調の4種に分けて検討する。最後に第8節で、今後の研究の方向を展望する。

キーワード: 現代客家語、日本語借用語、『客語詞彙資料庫系統平台』、音声的変容

# 現代客家語の日本語借用 —その音声・音韻的統合—

羅濟立

東呉大学日本語学科副教授

## 1. はじめに

一般的に二つの異なった言語がぶつかり合い、互いに或いは一方が変容していくことを「言語接触(language contact)」という(真田ほか 2000:70)。二つ、或いはそれ以上の言語体系が接触すると、音声、語彙、文法など、言語のあらゆるレベルでさまざまな変容が引き起こされる。

台湾の客家語は五十年にわたっての植民統治と近年の日本語ブームに大いに影響を与えられ、客家人が日本語から次々に単語を借用してきている。日本語からの語彙借用の分野では「客家語の日本語借用語」はほとんど扱われていないし、客家語における日本語からの語彙借用においても「音声・音韻的統合・変化」に関する記述はごく少ない。本稿では、客家人が日本語との接触を経験した結果、どのような音声的変容が起こったかを検討していく。また、本研究は、台湾客家語における日本語の語彙借用を二言語間のコード・スイッチングと区別し、日本語と客家語との言語接触の結果、オリジナル言語である日本語の語彙が受け入れ言語である客家語への転移され、音声・音韻的統合が行われているものと定義する。日本語と客家語との言語接触の結果生じた日本語の語彙の借用とはどういうものであるかを探求することを目的とする。

## 2. 調査の資料

客家人は、日本語との接触を経験し、日本語から多くの単語を借用した。本研究では客家委員会『客語詞彙資料庫系統平台』<sup>1</sup>（「平台」と略す）の資料を用いて、どのような音声・音韻的統合が行なわれているかを分析した。ちなみに、同じ客家語と言っても、下位

---

<sup>1</sup> 「平台」の詳しくは羅濟立 (2013)、または  
<http://wiki.hakka.gov.tw/Default.aspx> に譲りたい。

方言の相違によって日本語借用語の音声注記（とくに声調）も異なっている。本稿では台湾で一番話者の多い四県音を対象とする<sup>2</sup>。

日本語からの語彙について、羅濟立（2013）によれば分類は次の表1のようである。なお、以下では特に断らない限り、〔 〕内は文字表記とし、日本語は仮名に直し、客家語は太字、発音注記は「台湾客家語拼音方案」<sup>3</sup>を使い、発音は「平台」のモデル音声に依拠する。

表1 現代客家語の日本語借用語の表記法

(1)	完全移植	〔ばかやろう： <b>bag` ga ia lo`</b> 〕
(2)	形植法①	〔いちばん： <b>id` ji bang`</b> 〕
	形植法②	〔じどうしゃ： <b>cii tung ca`</b> 〕
(3)	音訳法①	〔こんばんは： <b>kon` bang` ua</b> 〕
	音訳法②	〔どうぞ： <b>lo` zo`</b> 〕
(4)	折衷方式	〔らっかさん： <b>log ha` za`</b> 〕

本論では日本語の発音を受けいれたものを対象とし、この内、客家語読みを全部或いは部分的に取った、漢字語の流用である(2)②と、客家語の接尾語や意味標識を添加した(4)は扱わない。「平台」にあらわれた日本語からの借用語を304語取り出し（巻末の付録を参照）、その音声・音韻的統合の過程を検討した。ちなみに、現段階翻訳する度に表記法が変わる可能性があるため、本稿では「平台」の扱っている漢字による表記法とは一線を画し、音声の転写だけに焦点を当てることにする。

<sup>2</sup> 「四県音」とは、中国広東省の梅州の興寧、五華（長楽）、平遠、蕉嶺の四県から移民してきた人たちの言葉を指して言う。しかし、一口で「四県音」と言っても、苗栗のような北部で話されている「四県音」と、美濃など南部で話されている「四県音」には発音や語彙に違いもある。

<sup>3</sup> 教育部国語推行委員会

（[http://140.111.34.54/mandr/bulletin.aspx?bulletin\\_sn=9568&pages=0&site\\_content\\_sn=3352](http://140.111.34.54/mandr/bulletin.aspx?bulletin_sn=9568&pages=0&site_content_sn=3352)）に詳しい。検索日：2013年8月25日。

### 3. 客家語・日本語の音節構造と借用

客家語（閉音節）と日本語（開音節）は、音節構造がかなり異なる。本節では両言語の音節構造を比べ、その違いが借用の過程で引き起こす現象を概観していく。

まず、日本語の音節構造は、「(子音 C) + (半母音 S) + 短母音/長母音 V + (促音 R/撥音 N/二重母音後の第二要素の「イ」J)」と規定される。拍（モーラ音素）はそれ自体では音節を構成しないが、音節からさらに分割できる下位構成素である。1 拍が日本の仮名 1 文字分の長さに対応し（ただし拗音の場合は 2 文字で 1 モーラ）、各拍がほぼ「等時的」に発音されることに注意すべきである。その具体的な語例を示すと、表 2 のようになる。

表 2 日本語の音節構造

音節構造	語例（下線を付した部分）
V、CV	/’e/（ <u>絵</u> ）、/ki/（ <u>木</u> ）
CSV	/kjo/（ <u>巨</u> 人）
CVR	/soR/（ <u>掃</u> 除）
CVN	/soN/（ <u>存</u> 在）
CVQ	/koQ/（ <u>国</u> 家）
CVJ	/kaJ/（ <u>会</u> 社）
CSVR	/sjuR/（ <u>シ</u> ュート）
CSVN	/kjaN/（ <u>キ</u> ャンセル）
CSVQ	/sjuQ/（ <u>出</u> 張）
CSVJ	/sjaJ/（ <u>い</u> らっ <u>しゃ</u> い）
CVJN	/’waJN/（ <u>ワ</u> イン）
CVJQ	/daJQ/（ <u>現</u> 代 <u>っ</u> 子）
CVRN	/roRN/（ <u>ロ</u> ーン）
CVNQ	/doNQ/（ <u>ロ</u> ン <u>ド</u> ん <u>っ</u> 子）
CSVJN	/zjoJN/（ <u>ジ</u> ョイ <u>ン</u> ト）

CSVRN	/cjeRN/ ( <u>チェーン</u> )
-------	-------------------------

一方、客家語を含む漢語では、表意文字たる漢字一字が一音節で発音される。換言すれば、意味を有する語彙項目の基本単位は一音節であり、それを表記する基本単位が漢字一字である。音節中で分割可能な最小単位を segment と称する。分節要素 (segmental) としては、声母は音節の必須要素であるが、声母が無い音節＝ゼロ声母も存在する。韻母は、介音、必須要素の主母音と、任意要素で子音性の高い要素たる韻尾とで構成されている。超分節要素たる声調は音節の必須要素である。つまり、母音的要素よりなる音節核に超分節要素たる声調がかぶさった音節が最小音節単位となり、それに子音的要素からなる声母と韻尾が組み合わさって音節を形成する。

このように、客家語の音節構造は日本語に比べてはるかに複雑であるが、客家語の音節構造は大よそ日本語のそれを包含することができる。両言語のこのような差異は借用の過程で顕在化し、日本語の単語を客家語に取り入れる際には、何らかの手段で音節構造を変え、客家語らしくしなければならない。日本語の音節構造の「子音、半母音、母音、モーラ音素」を客家語の音節構造と照合すると、ちょうど「声母、介音、主母音、韻尾」と並行している（羅濟立 2008 : 42）。客家語の用語を声母を C、介母を S、主母音を V、鼻音韻尾を N (m/n/ng)、入声（音節末子音）韻尾を Q (b/d/g) という音声学の記号で書き直すと、日本語の単語を借用する際に一般的観察される音節構造の変容は表 3 のようにまとめられる。なお、「平台」には CVRN、CVNQ、CSVJN、CSVRN の事例が観察されないので、表から除く。

表 3 音節構造の対照表

日本語	客家語	語例（下線を引いた音節）
V、CV	CV	〔あした： <u>a<sup>ˇ</sup> xi da<sup>`</sup></u> 〕
CVR		〔ありが <u>とう</u> ： <u>a<sup>ˇ</sup> li ga do<sup>`</sup></u> 〕
CSV	CSV	〔しゃしん： <u>xia<sup>ˇ</sup> xin<sup>`</sup></u> 〕
CSVR		〔ピッ <u>チャー</u> ： <u>pid jia<sup>ˇ</sup></u> 〕
CVN	CVN	〔 <u>こん</u> ばんは： <u>kon<sup>´</sup> bang<sup>`</sup> ua</u> 〕
CVQ	CV	〔ト <u>ラック</u> ： <u>to<sup>ˇ</sup> la gu<sup>`</sup></u> 〕
	CVQ	〔 <u>バック</u> ： <u>bag gu<sup>`</sup></u> 〕
CVJ	CVi	〔オート <u>バイ</u> ： <u>o<sup>ˇ</sup> do bai<sup>`</sup></u> 〕
CVJQ		〔 <u>スイ</u> ッチ： <u>sui<sup>`</sup> ji<sup>ˇ</sup></u> 〕
CSVN	CSVN	〔 <u>チャン</u> ス： <u>qiang<sup>`</sup> sii<sup>ˇ</sup></u> 〕
CSVQ	CSVQ	〔 <u>チャ</u> ック： <u>jiag gu<sup>`</sup></u> 〕
CSVJ	CSV+i	〔いらっ <u>しゃい</u> ： <u>i<sup>ˇ</sup> la xia i<sup>`</sup></u> 〕
CVJN	CVi+iN	〔コ <u>デ</u> イン： <u>ko<sup>ˇ</sup> dai in<sup>`</sup></u> 〕

表 3 に示すように、客家語の一音節には子音、単母音、二重母音、三重母音と子音韻尾が含まれているため、日本語の直音、拗音、鼻音に相当、或いは類似している。ただし、促音と入声韻尾との対応にはゆれがあるし、長音に対応する客家語の音節がない。客家語と日本語との音韻体系の相違に起因し、現代客家語における日本語借用語ならではの特徴が観察される。以下では、音節、声母（音節頭子音）、韻母（母音と音節末尾音の組み合わせ）に分けて、その主な例を挙げ、解説してみることにする。客家語の声調と日本語のアクセントとの対照は第 7 節に譲る。

#### 4. 音節

##### 4.1 音節の増加と省略

まず、日本語では 2 モーラずつが韻律上まとまることが非常に多



いので、日本語では2モーラずつのまとまりをフットと考えることにする（窪蘭・太田 1998）。〔あかチン：**a<sup>ˇ</sup> ka jin ki<sup>`</sup>**〕のように、「あかチンキ」は、日本語では2モーラずつのまとまりが認められるが、客家語では原語のまま写されており、音節の増加が見て取れる。一方、〔しよくどう：**xio<sup>g</sup> do<sup>ˇ</sup>**〕、〔しよくパン：**xio<sup>g</sup> pang<sup>`</sup>**〕のように、母音無声化による音節の脱落が観察される。なお、発音の経済性のためか、〔コンクリート：**kong<sup>ˈ</sup> gu li<sup>`</sup>**〕、〔カラット：**ka la<sup>`</sup>**〕、〔アクリル：**a<sup>ˇ</sup> ku li<sup>`</sup>**〕のような語末の音節が省略される事例もある。ちなみに、〔ボルト：**vo<sup>`</sup> do<sup>ˇ</sup>**〕、〔アンペア：**an<sup>ˈ</sup> be lu<sup>`</sup>**〕、〔メートル：**me<sup>`</sup> da<sup>`</sup>**〕、〔セルロイド：**sai<sup>ˇ</sup> lu lo<sup>`</sup> lu<sup>ˇ</sup>**〕など、音節の対応が一致していないものもある。英語の原音による借用であろうか、両語の借用過程による相違であろうか、稿を改めて考えてみたい。

## 4.2 （逆行）同化

後続の音節に影響を与えられ、客家語の音節が鼻音化、入声（促音）化したり、母音を添加したりするのは注目を引く。その事例を挙げれば、次のようになる。

鼻音化：〔オリンピック：**o<sup>ˇ</sup> lin pid gu<sup>ˇ</sup>**〕、〔クリーム：**ku<sup>ˇ</sup> lin mu<sup>ˇ</sup>**〕、〔コンテナ：**kan<sup>ˈ</sup> den na<sup>`</sup>**〕、〔フィルム：**fu<sup>ˇ</sup> lin mu<sup>`</sup>**〕、…など。

入声化：〔カタログ：**ka<sup>ˇ</sup> do log gu<sup>`</sup>**〕、〔はいけっかく：**hai<sup>ˈ</sup> kie kag gu<sup>`</sup>**〕、〔くちべに：**kud<sup>`</sup> ji me li<sup>`</sup>**〕、〔けち：**kied ji<sup>`</sup>**〕、〔くつ：**kud zii<sup>`</sup>**〕、〔シャツ：**xiad zii<sup>`</sup>**〕、〔そうです：**so<sup>`</sup> ded sii<sup>`</sup>**〕…など。

母音添加：〔マヨネーズ：**mai<sup>ˇ</sup> io ne<sup>`</sup> zii<sup>ˇ</sup>**〕。

## 4.3 長音の短音化と入声（促音）化

漢語では母音の長短はその性質や音声的環境によって決まって弁別的要素を持たないのに対して、日本語の母音は長短によって弁別

される。また、漢語の CV 型音節は日本語のそれより一倍以上の長さを持っており、むしろ日本語の CVR 型に近いと言える(望月 1974)。それゆえ、〔めいし：me` xi<sup>ˇ</sup>〕、〔おいしい：o<sup>ˇ</sup> i xi`〕、〔おおきい：o<sup>ˇ</sup> gi`〕などのように、長音を一音節で受け入れたのは一般的である。

注意すべきは、長音の入声(促音)化ということである。〔テープ：ted bu`〕、〔ブレーキ：bu<sup>ˈ</sup> led ki`〕、〔マーク：mag gu`〕などのように、後続する音節が無声子音の場合、逆行同化により入声音が生じたのである。

#### 4.4 促音の保持と脱落

促音は国家(こっか)、失敗(しっぱい)のように、日本の(漢)字音語では入声の字の次に無声音で始まる字が続く場合に現れる。促音を含む音節を客家語の入声字に対応し保持するのは原則である。例えば、〔チャック：jiag gu`〕、〔クッション：kud xiong`〕、〔バッター：bad da`〕、〔コップ：kog bu`〕…などである。また、〔ボクシング：bog<sup>ˈ</sup> xin gu`〕のように、/ku/の母音が無声化し、/k/が前の音節と共起して、聴覚上入声字と思われるものもある。

しかし、入声韻尾は大部分の北方方言では消失している。南方方言においても、弱化あるいは消失の過程にあるという(竺家寧 2007)。入声韻尾は極めて弱い内破音で、主母音の終わりで息が一度弱まると、もはや再び強まることなく弱まったままで、閉鎖が極めて柔らかに作られるのである(有坂 1957: 602)。それは声門閉鎖音に弱化したり、脱落したりすることも納得されよう。或いは日本語能力が足りなく、促音が知覚できない可能性も考えられる。促音が脱落した非入声字となる事例は、〔トラック：to<sup>ˇ</sup> la gu`〕、〔はいけっかく：hai<sup>ˈ</sup> kie kag gu`〕、〔クラッチ：ku<sup>ˈ</sup> la ji`〕、〔スイッチ：sui<sup>ˈ</sup> ji<sup>ˇ</sup>〕、〔スリッパ：sii<sup>ˈ</sup> li ba`〕、〔ストリップ：sii<sup>ˈ</sup> do li bu<sup>ˈ</sup>〕などが挙げられる。

#### 4.5 二重母音の第二要素 J の転写

日本語の二重母音の第二要素の「-い」は、長さの点では1モーラを成すが、それ自体で音節を成さない。〔うるさい : u<sup>ˇ</sup> lu sai<sup>`</sup>〕、〔オートバイ : o<sup>ˇ</sup> do bai<sup>`</sup>〕、〔かわいそう : ka<sup>ˇ</sup> vai so<sup>`</sup>〕などのように、それに対応する客家語の音節があれば、問題なく「CVJ」の一音節で写されている。しかし〔いらっしゃい : i<sup>ˇ</sup> la xia i<sup>`</sup>〕のように、母語の客家語にはその音節が無い場合は「~+i」の二音節になる。ちなみに、二重母音の第二要素が「~い」ではなく、例えば〔タオル : ta<sup>ˇ</sup> o lu<sup>`</sup>〕の「~お」の場合は、「o」自体で音節を成すことは一般的である。

#### 4.6 融合

連続する音節が融合して、別の音節になる音韻融合が観察される。〔アサダあめ : a<sup>ˇ</sup> sa da me<sup>`</sup>〕の1例である。

#### 4.7 鼻音の脱落

付属モーラの鼻音が聞こえ度により脱落したもので、〔アンモニア : a<sup>ˇ</sup> mo ni ia<sup>`</sup>〕の1例である。

#### 4.8 /ke//ge/と「kie」「gie」

鍾榮富（2001：65-68）によると、「介、街、解…」について、台湾客家語の各次方言では、/k(g)iai/→/k(g)ie/→/k(g)e/と、低母音/a/から/e/への中母音化には異なった条件が要され、この音韻変化はまだ完了していないため、世代差も出ているし、同じ発話者にしても自由変異が観察されるという。ここでは、〔おみやげ : o<sup>ˇ</sup> mi a gie<sup>`</sup>〕、〔きゅうけい : kiu<sup>ˇ</sup> kie<sup>`</sup>〕、〔カラオケ : ka<sup>ˇ</sup> la o kie〕、〔かける : ka<sup>ˇ</sup> kie lu<sup>`</sup>〕、〔げた : gie da<sup>ˇ</sup>〕、〔さけ : sa kie<sup>`</sup>〕などのように、日本語の「け」「げ」がすべて「kie」「gie」で表記され、例外は一つもない。一種の過渡的中間的状态にあった客家語の音声を反映していると考えられる。

## 5. 声母

### 5.1 非語頭閉鎖音

日本語の清濁音において有気音/無気音は意味区別の働きを持たない。語頭の音節（モーラ）が非語頭のそれより氣息を強く発音するのは一般的である。一方、客家語において有気音/無気音の対立は弁別的である。日本語の語頭閉鎖音が客家語の有気音と発音されるのは問題なく認められるが、非語頭閉鎖音がどのように扱われているかを検討した。例えば、2つの閉鎖音部分の場合、検討対象となるのは下線を付した語で、「ラケット」では/k/と/t/が非語頭閉鎖音である。日本語の非語頭閉鎖音がどのように客家語に統合されるかをまとめると、表3のようになる。（数字は比例）

表3 非語頭閉鎖音の客家語への統合

か	<b>k</b> 11/14	き	<b>k</b> 18/19	く	<b>k</b> 5/15	け	<b>k</b> 14/14	こ	<b>k</b> 6/8
	<b>g</b> 3/14		<b>g</b> 1/19		<b>g</b> 10/15		<b>g</b> 0/14		<b>g</b> 2/8

た	<b>t</b> 1/13	て	<b>t</b> 1/9	と	<b>t</b> 0/27
	<b>d</b> 12/13		<b>d</b> 8/9		<b>d</b> 27/27

ぱ	<b>p</b> 2/8	び	<b>p</b> 3/6	ぷ	<b>p</b> 1/9	ぺ	<b>p</b> 1/2	ぽ	<b>p</b> 1/1
	<b>b</b> 6/8		<b>b</b> 3/6		<b>b</b> 8/9		<b>b</b> 1/2		<b>b</b> 0/1

表3に示すように、非語頭閉鎖音が有気音となるケースと、無気音となるケースがある。一見して完全に客家人の聴覚により決定される。ただし、「おおきい : o' gi'」の1例を除き、「き」「け」はすべて有気音となること、「たたみ : ta' ta mi'」、「モーテル : mo' te lu'」の2例を除き、「た」「て」「と」はすべて無気音となることは、注意すべきである。他の語の非語頭閉鎖音にはゆれが見られたが、

これらだけには傾向があるように見える。また、「ば行」について、「ぷ」の無気音が優勢を呈しており、「ば」、「ぴ」はゆれがあり、「ぺ」、「ぽ」は事例が僅少で、はっきりしたパターンが観察されない。

ちなみに、清破擦音の「ち」「つ」は〔チーズ：**qi` sii`**〕、〔チャンス：**qiang` sii`**〕が有気音「q」となるが、それ以外は語頭/非語頭にもかかわらずすべて無気音の「j」に統合されている。その結果、〔おじさん：**o` zi sang`**〕の1例を除き、「ち」は「じ」とともに「j」で統一され写されている。一方、客家語には有声音を持っていない。濁音に取って代わって清音となる事例も見出される。無気音の〔せびろ：**se` pi lo`**〕、〔ながし：**na` ka xi`**〕と、有気音の〔ヒューズ：**hiu` sii`**〕などである。

## 5.2 唇音

客家語の/v/声母は、有声唇歯摩擦音であり、合口韻の介音/u/の摩擦を強くしたものである（鍾榮富 1991）。美濃客家語では、ほとんど摩擦が聞こえない有声両唇接近音であるが、同じ四県方言群では、摩擦音になるところが多い。それゆえ、日本語の/u/と/w/が客家語の/v/への統合が起こった。例えば、〔うどん：**vu` long`**〕、〔かわいそう：**ka` vai so`**〕、〔わさび：**va` sa bi`**〕、〔ワンピース：**van` pi sii`**〕である。

また、日本語の/b/は、「あぶない」のように、口を緩めた有声両唇摩擦音の/β/と読まれる場合もある。この/β/は音声的に/v/に近いようで、表記に用いるローマ字「v」はそのことを反映している。例えば、〔ぼうえんきょう：**vo` en` kio**〕、〔ばいきん：**vai` kin`**〕、〔オーバーコート：**o` va ko do`**〕、〔バイオリン：**vai` io lin`**〕、〔おしぼり：**o` xi vo li`**〕などである。なお、〔たくあん：**ta` gu yang`**〕のように、/a/が前の/u/に影響を与えられ、/a/→/ua/→/va/の過程を経て有声摩擦音への統合も観察される。〔まんねんひつ：**van` nen bid zii`**〕の/m/が「v」となるのは、漢字「萬年筆」の客家語読み「van」の影響であろう。ちなみに、「まんねんひつ」は音訳によ

るものだけではなく、形借による「**van ngien<sup>ˇ</sup> bid<sup>`</sup>**」も客家語に取り入れられた。

さらに、〔ワルツ：**ba<sup>ˇ</sup> lo zii<sup>`</sup>**〕のような/w/→/β/→/b/と、〔アスファルト：**a<sup>ˇ</sup> sii ba lu do<sup>`</sup>**〕のような/Φ/→/β/→/b/といった唇音の音声的変容が推測される。

なお、有声音、唇音を同じくする閉鎖音/b/と鼻音/m/の交替が見られ、〔くちべに：**kud<sup>`</sup> ji me li<sup>`</sup>**〕の1例である。

### 5.3 /d/→「l」

客家語には有声音歯茎閉鎖音がない。台湾人日本語学習者にとって困難な習得項目の一つである（劉秋燕 2000、林嘉惠 2002 など）。この/d/に取って代わって同じ調音点/l//t//n/などで発音・知覚するものが多いようである。ここでは、「l」で表記されるのはそのことを反映している。例えば、〔サイダー：**sai<sup>`</sup> la<sup>ˇ</sup>**〕、〔かいちゅうでんとう：**ka<sup>ˇ</sup> jiu len do<sup>`</sup>**〕、〔おでん：**o<sup>ˇ</sup> len<sup>`</sup>**〕、〔どうぞ：**lo<sup>`</sup> zo<sup>`</sup>**〕などである。

### 5.4 声母の脱落

母語の客家語には無い有声音の子音音素が脱落した事例が検出される。ここでは、〔げつようび：**ied<sup>`</sup> zii io<sup>`</sup> bi<sup>ˇ</sup>**〕の語頭の有声音軟口蓋閉鎖音/g/、〔にんぎょう：**nin<sup>ˈ</sup> io<sup>`</sup>**〕の非語頭の有声音軟口蓋閉鎖音/g/（鼻音化して有声音軟口蓋鼻音/ɰ/になったり、緩い閉鎖で摩擦音化する場合がある）、〔おじょうさん：**o<sup>ˇ</sup> io<sup>`</sup> sang<sup>ˇ</sup>**〕の有声音歯茎硬口蓋破擦音/dʑ/と、〔バックミラー：**bag<sup>`</sup> ku mi ia<sup>`</sup>**〕の有声音歯茎弾音/s/の脱落が観察される。

### 5.5 声母の交替

声母の交替については、管見の限り先行研究がなく、それぞれ1例しかないため、今回の資料を検討しても、はっきりしたパターンが観察されない。こういう事例の出現にはさまざまな可能性が考え

られる。決定的な証拠がまだ見つからないため、はっきりと断定できない。今後さらに語例を収集し、多角的に検討していく必要がある。事例は下記の通りである。

/m/→/l/ : [ すみません : **sii` li ma sen`** ]

/g/→/b/ : [ せいろがん : **se` lo bang`** ]

/tɕ/→/l/ : [ ちょうちょう : **lio` jio`** ]

/ç/→/k/ : [ べにひ : **be` ni ki`** ]

## 6. 韻母

客家語の韻母の数が多く、日本語の母音を大体包括できる。問題になるのは「母音/i/の脱落」と「母音の交替」である。

### 6.1 母音/i/の脱落

日本語の母音/i/は平唇前舌狭母音で響きが小さい。聞き取れにくいため抜け落ちた事例が3語検出される。[ かいちゅうでんとう : **ka` jiu len do`** ] [ おみやげ : **o` mi a gie`** ]、[ すきやき : **sii` ki a ki`** ] である。一方、注意すべきは、客家人は/-i/が/o/の母音へと移動するとき発する渡り音を聞き取ったということである。[ バイオリン : **vai` io lin`** ] と [ ラジオ : **la` ji io`** ] である。

### 6.2 母音の交替

まずは、/i/と/e/の交替が見られる。図1から分かるように、/i/は前舌狭(close)母音で、/e/は前舌中(mid)母音であり、/i/の位置から舌を順次下方へと下げていくと/e/に達する。/i/が「e」で取って代わったのは[ ピストル : **pe` sii do lu`** ] の1例がある。また、/ai/と/ae/において、韻尾としての/i/と/e/は聴解上混同を招きやすいことは理解し難くない。これに加えて、客家語に「ae」という二重母音はないため、[ まえかけ : **mai` ka kie`** ] の/ae/は「ai」で取り入れられたのである。さらに、広母音/a/から狭母音/i/への中母音化/e/が生じたのはよく観察されるものであり、[ コデイン : **ko`**

**dai in`**〕のような/e/→/ai/の交替が見られる。

次に/u/と/o/の交替が検出される。/u/と/o/はともに後舌母音であり、狭母音と中母音の違いである。発音者が/u//o/の中間の音（例えば/ə/）を発音すれば、曖昧な音が出ると思われる。/u/を/o/と聞き取った事例が三つあり、〔ワルツ：**ba` lo zii`**〕、〔プロ：**po lo`**〕と〔ゆうとう：**io do`**〕である。同工異曲の妙があるのは/a/と/o/の交替である。図1に示すように、日本語の/a/は後舌寄りの広(open)母音で、/o/は後舌の中母音である。/a/の位置から舌を順次上方へと上げていくと/o/となる。/a/→/o/の交替は〔カタログ：**ka` do log gu`**〕の1例があり、/o/→/a/の交替は〔コンテナ：**kan` den`na`**〕と〔ポンプ：**pang` pu`**〕の2例が見られる。

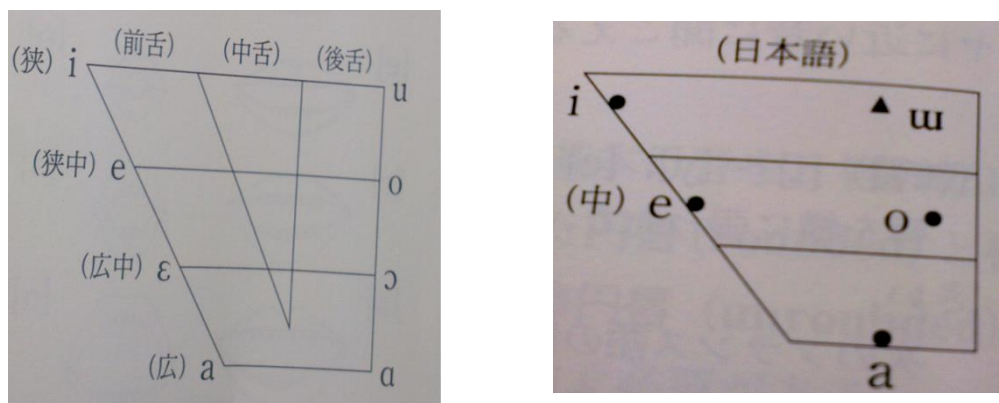


図1 基本母音と日本語の母音分布（小泉 2003：87、93）

## 7. 声調

客家語の声調は音声レベルで6種類認められるが、音韻レベルでは4種類（上昇調、低調、下降調、高平調）にまとめられる。その理由は、-b、-d、-gで收音する入声調（短い低調、短い高調）は音韻構造が異なるのみで、pitchは相応の滑音調と同じである。

一方、日本語は、客家語と同じく、音の高低の違いによって単語の区別を行なう言語である。ただし、客家語では、音節ごとに声調が付与されているのに対して、日本語では、各「拍」の組み合わせ



によって語の意味が区別される<sup>4</sup>。しかし、比較の便宜上、以下では日本語のアクセントを「音節」の高・低の2段階にする。高アクセントは音節に●で表示される。例えば、(音節の区切り目を・で示す)

平板(尾高)型<sup>5</sup>：レモン (レ・モン)    ○○

頭高型：ゲーム (ゲー・ム)    ●○

中高型：あさって (あ・さっ・て)    ○●○

一方、客家語の声調は日本語のような高・低の2段階を有するだけでなく、上昇・下降の変化もある。ここでは、比較の便宜上、音節連続の中で際立ったピッチの部分考慮に入れ、高調と下降調を日本語のアクセントの核に当てはめることにする。この基準によれば、客家語の日本語借用語を表4のような声調の型を取り出すことができる<sup>6</sup>。

表4 客家語における日本語借用語の声調型

声調型	説明	記号	語例
平板型	2音節目以降は高調	○○○○	〔おみやげ：o <sup>ˇ</sup> mi a gie〕
頭高型	1音節目は高調か下降調	●○	〔げた：gie da <sup>ˇ</sup> 〕 〔べんじょ：ben <sup>`</sup> jio <sup>ˇ</sup> 〕
中高型	語中の音節が高調か下降調	○○●○	〔プロペラ：pu <sup>ˇ</sup> lo pe la <sup>ˇ</sup> 〕 〔ステンレス：sii <sup>`</sup> den le <sup>`</sup> sii <sup>ˇ</sup> 〕
尾高型	最後の音節が下降調	○○●	〔サービス：sa <sup>ˇ</sup> bi sii <sup>`</sup> 〕

以上のことを踏まえ、「平台」の資料を用いて、どのような声調の

<sup>4</sup> 日本語のアクセントの依拠は『新明解国語辞典』第7版(2011年、東京：三省堂)と『日本国語大辞典』インターネット辞典(<http://www.japanknowledge.com/top/freedisplay>)による。

<sup>5</sup> 客家人が日本語から単語を借用する際、平板型か尾高型いずれか、語の意味を識別する働きを無視しているため、ここでは区別をしないことにする。

<sup>6</sup> 〔パーセント：pa<sup>ˇ</sup> sen<sup>`</sup> do<sup>ˇ</sup>〕、〔ボート：bo<sup>`</sup> do<sup>ˇ</sup>〕、〔デュース：diu<sup>`</sup> sii<sup>ˇ</sup>〕の三語について、客家語の声調注記には誤植があり、「平台」のモデル音声により直した。

変容が起こったかを分析した。その結果を一覧表に示すと、表 4 のようになる。なお、両語の音節が一致していない語を対象から外す。以下の 11 語である。〔しょくどう : **xiog` do`**〕、〔ボルト : **vo` do`**〕、〔カラット : **ka la`**〕、〔アクリル : **a` ku li`**〕、〔あかチン : **a` ka jin ki`**〕、〔アサダあめ : **a` sa da me`**〕、〔コンクリート : **kong` gu li`**〕、〔しょくパン : **xiog pang`**〕、〔ボクシング : **bog` xin gu`**〕、〔まえかけ : **mai` ka kie`**〕、〔メートル : **me`da`**〕。

表 4 声調の統合

日本語		客家語		語例
音節数	アクセント型	声調型	語数	
五	○○●○○	○○○○●	1	アスファルト : <b>a` sii ba lu do`</b>
四	○○○○	○○○○	2	おみやげ : <b>o` mi a gie</b> カラオケ : <b>ka` la o kie</b>
		○○●○	1	プロペラ : <b>pu` lo pe la`</b>
		○○○●	10	すきやき : <b>sii` ki a ki`</b> アンモニア : <b>a` mo ni ia`</b>
	●○○○	○○○●	1	もしもし : <b>mo` xi mo xi`</b>
	○●○○	○○○●	4	まんねんひつ : <b>van` nen bid zii`</b> ありがとう : <b>a` li ga do`</b>
		○○●○	1	ステンレス : <b>sii` den le` sii`</b>
	○○●○	○○○●	9	ばかやろう : <b>bag` ga ia lo`</b> アスピリン : <b>a` sii pi lin`</b>
		○○●○	10	あかぼうし : <b>a` ka bo` xi`</b> げつようび : <b>ied` zii io` bi`</b>
	○○○●	○○○●	1	すみません : <b>sii` li ma sen`</b>
	○○○○ ○○●○	○○○●	3	ホルマリン : <b>fug` ku ma lin`</b> ペニシリン : <b>pe` ni xi lin`</b>
		○●○	5	えんぴつ : <b>en` bid zii`</b>

三	○○○			セメント : se` men` do`
		○○●	29	バイオリン : vai`io lin` バッテリー : bad de li`
	●○○	○○●	32	そうです : so` ded` sii` タオル : ta` o lu`
	○●○	○●○	10	パチンコ : pa` jin` go` だいじょうぶ : dai` jio` bu`
		○○●	27	オートバイ : o` do bai` おかあさん : o` ka sang`
	○○●	○●○	1	かわいい : ka` ua i`
		○○●	3	かわいそう : ka` vai so` うるさい : u` lu sai`
	○○○ ●○○	○●○	1	ハンカチ : han` kad ji`
		○○●	3	ひのき : hi` no ki` サンダル : san` da lu`
	○○○ ○●○	○○●	4	ニコチン : ni` ko jin` いちばん : id` ji bang`
	●○○ ○●○	○●○	1	パーセント : pa` sen` do`
二	○○	●○	5	べんじょ : ben` jio` ちゅうしゃ : jiu` xia`
		○●	35	まんが : mang ga` しゃしん : xia` xin`
	●○	●○	38	ゲーム : gie` mu` ソーダ : so` da`
		○●	50	きれい : ki` le` えき : ed ki`
	○●	○●	5	スパイ : sii bai`

				せんせい : sen' se`
	○○	●○	1	えいが : e` ga`
	●○	○●	1	すし : su xi`
一	●	●	3	きょう : kio` パン : pang`

表 4 の結果を見ると、客家人が日本語の単語を借用する際、どのように声調（アクセント）を受容したのか、一目瞭然である。声調の統合についての調査から次のことが言える。

(1) すぐに気付くのが、客家語の声調型が日本語のアクセント型と一致しているものがあるということである。音節数を問わずに数えると、71 語もある。これはいわゆる「原音重視」の動きがあり、つまり、日本語の原音に応じて、客家語には無い音が外来音として客家語の中に取り入れられ、それに当たる発音が原音に近いほうが望ましいと言えよう。

(2) 客家語は日本語と同じく平板型と起伏型の声調型をそろえている。その中で、原音のアクセント型にもかかわらず、最後の音節が下降調たる尾高型が一番量が多い。297 語のうち 214 語があり、72% と高い占有率を持っている<sup>7</sup>。その理由としては、統治時代九州出身の日本人が多く、彼らが操った九州方言の影響<sup>8</sup>（陳麗君 2004）や、統治時代台湾人は日本語の「標準語」を教えられたが、アクセントに関する知識があまり授与されなかったため、自分自身の母語なまりの日本語を発音してしまったこと（寺川 1942、王順隆 2005）、人間が発話するとき、少しずつ高さが下降していく自然下降という生理的現象により、最終音節以外の音節に平調が立ちやすく、最終音節に立った声調は下降調がもっとも多いこと（潘心瑩 2006）、などが考えられる。それにもかかわらず、尾高型、つまり「～＋下降

<sup>7</sup> (1) の同じ声調型を有する 71 語のうち、尾高型が 6 語ある。この 6 語を含まない。

<sup>8</sup> しかし、九州方言との対照比較については考察に触れていない。今後の更なる探求が俟たれるところである。

調」が高い比率を占めていることから、客家語の日本語借用語の基本的な声調型となると言っても差し支えないであろう。

(3) 尾高型のほかに、頭高型がもっとも多く、次に中高型、平板型の順に並ぶ。頭高型の借用語は二音節と一音節だけにあらわれている。しかも、47語のうち、42語が日本語と同じ声調型を有するものである。

(4) 中高型(「～＋高調・下降調＋低調)の借用語の30語のうち、21語が日本語と同じ声調型を有しており、三音節と四音節に分布している。

(5) 平板型の借用語もあるが、原音重視の〔おみやげ：**o<sup>ˇ</sup> mi a gie**〕と〔カラオケ：**ka<sup>ˇ</sup> la o kie**〕の二語である。

(6) 平板型を除いて、最終音節は下降調でなければ低調となり、上昇調は〔バイバイ：**bai bai<sup>ˊ</sup>**〕の1例しかない。

## 8. 終わりに

本稿では、客家委員会『客語詞彙資料庫系統平台』にあらわれた日本語からの借用語を音声・音韻的変容の観点から分析した。その結果、客家語と日本語との音韻体系の相違に起因し、4～7節でみたように、日本語から現代客家語に語を借入する場合には、声母、韻母と声調の音声・音韻的変容が起こったのが確認できる。

しかし、本稿では、対照的手法により客家語における日本語借用語の音声・音韻実態を明らかにしたが、その原因・ゆれについてはまだ明らかにしていない部分も多いため、今後さらに語例を収集し追究していきたい。また、客家語の借用語は、閩南語、北京語(台湾国語)を経由して取りいれられたものもあるため、閩南語、北京語の日本語借用との比較対照を行い、本稿で明らかになった音声・音韻的特徴と結果が一致するかどうか、今後検証していきたい。なお、客家語の日本語借用語は日本語能力、年齢、家庭環境、地域などの違いにより多様化を呈している。これについて、社会言語学的な考察を含めて、検討すべき問題が多く残されている。

## 参考文献

### 日本語文献（五十音順）

- 有坂秀世（1957）『国語音韻史の研究』増補新版、東京：三省堂。
- 窪菌晴夫・太田聡（1998）『音韻構造とアクセント』東京：研究社。
- 小泉保（2003）『改訂音声学入門』東京：大学書林。
- 寺川喜四男（1942）『臺灣に於ける國語音韻論：外地に於ける國語發音の問題（音質・音量篇）』台北：臺灣學藝社。
- 真田信治・陣内正敬・渋谷勝己・杉戸清樹（2000）『社会言語学』東京：おうふう。
- 潘心瑩（2006）「声調分布から見た台湾語の韻律的特徴」『言語学論叢』（25）、1-18 頁。
- 望月八十吉（1974）『中国語研究学習双書 13 中国語と日本語』東京：光生館。
- 羅濟立（2013 年 6 月）「現代客家語に見る日本語借用語の表記」『台湾日本語文学報』（33）、199－224 頁。
- 劉秋燕（2000）「台語母語話者に見られる日本語齒茎音 /d, n, r/ の聴取傾向」『日本語教育』（107）、85-94 頁。
- 林嘉惠（2002）「台湾人日本語学習者における有声・無声破裂音習得の問題点の再検討--日本語・中国語・台湾語三言語の音韻・音声の対照をふまえて」『応用言語学研究』（4）、171-180 頁。

### 中国語文献（筆画順）

- 王順隆（2005）「台語中日語外來語之聲調與日語音節結構的對應關係」語文教育國際研討会、南台科技大学。（<http://www32.ocn.ne.jp/~sunliong/ong.htm>）
- 竺家寧（2007）『声韻学』（第二版）、台北：五南圖書出版。
- 陳麗君（2004）「臺語中的日語借詞」『南臺應用日語學報』4、73-90 頁。
- 蔡茂豐（1969）「國語化的日語及台語化的日語研究」『日語文諸問題的研究』台北：大新書局。

鍾榮富(1991)「客家話的[v]聲」『聲韻學論叢』第三輯、435－455 頁、  
台北：學生書局。

鍾榮富(2001)『福爾摩沙的烙印：臺灣客家話導論』(上)(下)、台北：  
文建會。

付録 日本語借用語の一覧表  
(五十音順)

日本語	客家語
あかチン	a' ka jin ki'
あかぼうし	a' ka bo' xi'
アサダあめ	a' sa da me'
あさって	a' sa de'
あした	a' xi da'
あっさり	a' sa li'
アンペア	an' be lu'
えき	ed ki'
エンジン	en' jin'
えんぴつ	en' bid zii'
おでん	o' len'
おみやげ	o' mi a gie
アスピリン	a' sii pi lin'
アスファルト	a' sii ba lu do'
ありがとう	a' li ga do'
アルミ	a' lu mi'
アンモニア	a' mo ni ia'
いちばん	id' ji bang'
いもうと	i' mo do'
いらっしやい	i' la xia i'
インキ	in' ki'
インチ	in' ji'
ウイスキー	ui' sii ki'
うし	u xi'
うどん	vu' long'
うま	u ma'
うるさい	u' lu sai'
えいが	e' ga'
おいしい	o' i xi'
おおきい	o' gi'
オートバイ	o' do bai'
オーバーコート	o' va ko do'
オーム	o mu'
おかあさん	o' ka sang'
おかしい	o' ka xi'
おじいさん	o' ji' sang'
おじさん	o' zi sang'
おしぼり	o' xi vo li'
おじょうさん	o' io' sang'
おとうさん	o' do sang'
おとうと	o' do' do'
おに	o ni'
おばあさん	o' ba' sang'
おばさん	o' ba sang'
おびり	o' bi li'
オリンピック	o' lim pid gu'
かいちゅうでんとう	ka' jiu len do'
カーキ	ka ki'

カーテン	ka' den'
カード	ka' do'
かける	ka' kie lu'
かさ	ka sa'
ガス	ga sii'
ガソリン	ga' so lin'
カタログ	ka' do log gu'
かばん	ka' bang'
かみ	ka mi'
カメラ	ka' me la'
カラー	ka la'
カラオケ	ka' la o kie
ガラス	ga' la sii'
カレンダー	ka' len da'
カロリー	ka' lo li'
かわいい	ka' ua i'
かわいそう	ka' vai so'
かんぱい	kan' bai'
かんぱん	kan' bang'
ギター	gi' da'
きって	kid de'
きのう	ki' no'
きもち	ki' mo ji'
きもの	ki' mo no'
キャッチャー	kied jia'
きゅうけい	kiu' kie'
きょう	kio'
きれい	ki' le'
キロ	ki lo'
くすり	ku' sii li'
くちべに	kud' ji me li'
くつ	kud zii'
クッション	kud xiong'
くま	ku ma'
クラッチ	ku' la ji'
クラブ	ku' la bu'
グラム	gu' la mu'
クリーム	ku' lim' mu'
くるま	ku' lu ma'
ゲーム	gie' mu'
げた	gie da'
けち	kied ji'
ケチャップ	kie' jia bu'
げつようび	ied' zii io' bi'
こぎって	ko' kid de'
コップ	kog bu'
コデイン	ko' dai in'
こども	ko' do mo'
コピー	ko bi'
こまる	ko' ma lu'
コレラ	ko' le la'
コンクリート	kong' gu li'
コンテナ	kan' den' na'
こんばんは	kon' bang' ua
こんぶ	kon' bu'



サービス (bonus)	sa' bi sii'
サービス (extra services)	sa' bi sii'
サーブ	sa' bu'
サイズ	sai' sii'
サイダー	sai' la'
サウナ	sa' u na'
さかずき	sa' ga zii ki'
さけ	sa kie'
さしみ	sa' xi mi'
さようなら	sa' io na la'
サロン	sa' long'
サンダル	san' da lu'
シップ	xid bu'
じしゃく	zi' xiang ku'
じどうしゃ	ji' do' xia'
しゃしん	xia' xin'
シャツ	xiad zii'
ジャンパー	jiam' ba'
しょうじ	xio' ji'
ショート (the brain is short-circuited)	xio' do'
ショート (short circuit)	xio' do'
しょくどう	xiog' do'
しょくパン	xiog pang'
じょちゅう	jio' jiu'
スイッチ	sui' ji'
すきやき	sii' ki a ki'
スクーター	sii' ku da'
すし	su xi'
ステンレス	sii' den le' sii'
ストリップ	sii' do li bu'
スパイ	sii bai'
すみません	sii' li ma sen'
スラブ	sii' la bu'
スリッパ	sii' li ba'
せいろがん	se' lo bang'
セット (a round)	sed do'
セット (hairstyling)	sed do'
せびろ	se' pi lo'
セメント	se' men' do'
セルロイド	sai' lu lo' lu'
せんせい	sen' se'
せんぱい	sen' bai'
そうか	so' ga'
そうです	so' ded' sii'
ソーダ	so' da'
だいじょうぶ	dai' jio' bu'
タイヤ	tai ia'
タイル	tai lu'
タオル	ta' o lu'
たくあん	ta' gu vang'
タクシー	ta' ku xi'
たこ	ta ko'
たたみ	ta' ta mi'

タンク	tan' ku'
たんす	tan sii'
チーズ	qi' sii'
ちくおんき	jig' ku ong' ki'
チップ	jib bu'
チャック	jiag gu'
チャンス	qiang' sii'
ちゅうしゃ	jiu' xia'
ちょうちょう	lio' jio'
つめきり	zii' me ki li'
テープ	ted bu'
テスト	te sii' do'
テトロン	ted' do long'
テニス	te' ni sii'
デュース	diu' sii'
でんちく	den' jig gu'
てんぷら	ten' bu la'
どうぞ	lo' zo'
とけい	to' kie'
トマト	to' ma do'
どうようび	do' io' bi'
ドライバー	do' lai' ba'
トラック	to' la gu'
とり	to li'
とりい	to' li i'
とろ	to lo'
ナイロン	nai' long'
ながし	na' ka xi'
にいさん	ni sang'
ニコチン	ni' ko jin'
にちようび	nid' ji io' bi'
にんぎょう	nin' io'
にんじん	nin' jin'
ねえさん	ne sang'
ネオン	ne' ong'
ネクタイ	ne' gu dai'
ねこ	ne ko'
のり (糊)	no li'
のり (海苔)	no li'
パーセント	pa' sen' do'
パーティー	pa ti'
ハーモニカ	ha' mo ni ka'
パール	pa lu'
パイ	pai'
バイオリン	vai' io lin'
ハイカラ	hai' ka la'
ばいきん	vai' kin'
はいけっかく	hai' kie kag gu'
バイバイ	bai bai'
ハイヤー	hai ia'
ばかやろう	bag' ga ia lo'
はさみ	ha' sa mi'
パス	pa sii'
バス	ba sii'
パスポート	pa' sii po' do'

パチンコ (slingshot)	pa' jin' go'
パチンコ (Pachinko)	pa' jin' go'
バック	bag gu'
バックミラー	bag' ku mi ia'
バッテリー	bad da'
バット	bad da'
ハム	ha mu'
パン	pang'
ハンカチ	han' kad ji'
パンツ	pan zii'
ハンドバッグ	han' do bag gu'
ハンドル	han' do lu'
バンパー	ban' ba'
ピアノ	pi' a no'
ビール	bi lu'
ひこうき	hi' ko ki'
ピストル	pe' sii do lu'
ピッチャー	pid jia'
ひのき	hi' no ki'
ヒューズ	hiu' sii'
びょういん	bio' in'
ピンポン	pin' pong'
フィルム	fu' lin mu'
ふみきり	fu' mi ki li'
ブラジャー	bu' la jia'
プラス	pu' la sii'
ブレーキ	bu' led ki'
プロ	po lo'
プロペラ	pu' lo pe la'
ベース	be' sii'
ベッド	bet do'
ペニシリン	pe' ni xi lin'
べにひ	be' ni ki'
ヘルメット	he' lu med do'
べんじょ	ben' jio'
ペンチ	pen' ji'
べんとう	ben' do'
ぼうえんきょう	vo' en' kio'
ほうたい	ho' dai'
ホース	ho' sii'
ボート	bo' do'
ホーム	ho mu'
ホームラン	ho' mu lan'
ボールリング	mo' lin' gu'
ボクシング	bog' xin gu'
ホテル	ho' de lu'
ホルマリン	fug' ku ma lin'
ホルモン	ho' lu mong'
ポンプ	pang' pu'
マーク	mag gu'
マイク	mai' gu'
マイシン	mai' xin'
マイナス	mai' na sii'
まえかけ	mai' ka kie'

マサージ	ma' sa ji'
ママさん	ma' ma sang'
マヨネーズ	mai' io ne' zii'
マラソン	ma' la song'
マラリヤ	ma' la li ia'
まる	ma lu'
まんが	mang ga'
まんねんひつ	van' nen bid zii'
ミシン	mi' xin'
めいし	me' xi'
メーター	me' da'
メートル	me' da'
めがね	me' ga ne'
メロン	me' long'
モーター	mo' da'
モーター	mo' te lu'
もしもし	mo' xi mo xi'
モデル	mo' de lu'
モンキーレンチ	mong' ki'
やさい	ia' sai'
ゆうとう	io do'
ようちえん	io' ji en'
ヨードチンキ	io' do jin ki'
ようふく	io' fug gu'
よろしい	io' lo xi'
ライター	lai' da'
ラケット	la' kied do'
ラジオ	la' ji io'
ラッパ	lab ba'
ラブレター	la' bu le' da'
ランニング	lan' nin gu'
リヤカー	li' ia ka'
りんご	lin go'
レース	le' sii'
レモン	le' mong'
わさび	va' sa bi'
ワルツ	ba' lo zii'
ワンピース	van' pi sii'